



冬季の水田作業

農業経営支援課 山村



冬季は稻の栽培期間ではありませんが、翌春からの水稻栽培に向けた準備期間として重要な時期です。雑草やガス害、ジャンボタニシ対策、土づくりなど、前作での問題点があれば早めに対処しましょう。

冬季耕うん

収穫後に秋耕を行わなかつた場合、稻わらや残り株が翌春に水を張った際に急激に分解し、多量のガスを発生させることができます。これにより移植直後の水稻の根が傷む「ガス害」が発生する可能性があります。冬季のうちに耕うんして土に混ぜ込むことで、冬から春にかけて分解を進め、ガス害を緩和できます。また、冬季耕うんは多年生雑草や害虫の卵を地中に埋めたり、寒風にさらして枯死、殺虫する効果もあります。

**※厳寒期に硬く締まった乾田を耕うんすること
で、ジャンボタニシの駆除にもつながります。**

ケイ酸資材の種類と使い分け

水稻はケイ酸を多く吸収する作物です。ケイ酸資材を施用する際は、土壤診断結果を活用し、不足している成分を補える資材を選びましょう。

・ケイ酸加里プレミア34 80kg / 10a

苦土4%・カリ20%を含みます。カリが不足している圃場や高温障害の低減におすすめです。
・とれ太郎 100kg / 10a
 リン酸6%・苦土12%・石灰40%を含みます。苦土が不足している圃場におすすめです。

・オイスター・ミネラル 120kg / 10a

有機石灰セル力を含み、ミネラルが豊富です。微量元素が不足している圃場におすすめです。

冬季の作業をしつかり行うことで、翌春からの水稻栽培がスムーズに進みます。ぜひ、計画的に取り組んでみてください。